

## 会 議 概 要 書

審議会等の名称	平成30年度 第1回磐田市子ども・子育て会議
担当部課名	こども部子育て支援課
会議の開催日時	平成30年10月12日（金）10：00～11：30
会議の開催場所	磐田市 ひと・ほんの庭にこっと 2階 研修室
出席者（職・氏名）	<p>委員：市川真実、井上紗矢香、伊藤辰義、望月沙登美、清水聖也、加藤仁敏、勝又みさ子、原田征己、松下尚子、漁田俊子、田丸恭子  （敬称略、11名）  （欠席：川崎博世委員）</p> <p>〈事務局〉  こども部 部長 山内秋人  教育部 児童青少年政策室 室長 加藤計吾 主任 三谷昌史  こども部 幼稚園保育園課 課長 鈴木都実世  幼保運営G長 寺田尚人 副主任 横井智子  ひと・ほんの庭にこっと 館長補佐 村川実加  子育て支援課 課長 高比良紀恵子  課長補佐兼発達支援室長 金子和由  母子保健G長 春田恵理子  子育て支援G長 伊藤修一 主事 曾布川実津季</p>
議 題	(1)磐田市子ども・子育て支援事業ニーズ調査について (2)磐田市子育て世帯の生活実態調査について (3)磐田市ひと・ほんの庭にこっとの概要紹介について
配付資料等の件名	資料1 磐田市 子ども・子育て支援事業ニーズ調査の概要（案） 資料2 磐田市 子育てに関するアンケート調査（就学前児童保護者用） ※平成25年度アンケート調査票 資料3 磐田市 子育て世帯の生活に関する実態調査報告書 資料4 ひと・ほんの庭 にこっと 施設案内
【会議概要】	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 正副会長の選任  会 長 漁田俊子委員 副会長 原田征己委員

#### 4. 議題説明・意見交換

##### (1)磐田市子ども・子育て支援事業ニーズ調査について（資料1・2参照）

###### 〈事務局からの説明〉

- ・ 現行の子ども・子育て支援事業計画は平成27年度から平成31年度までの5年を計画の期間としており、本年度で4年目を迎えている。
- ・ 本年度（平成30年度）は、平成32年度からの第二期計画策定の基礎資料とするための、子ども・子育て支援事業ニーズ調査（アンケート調査）を実施する予定。
- ・ アンケート調査の概要（案）は資料1のとおり。アンケートは、国の指針にある12項目についての質問と、市が独自で設定する質問とで構成される。各事業の現状等や、市独自の質問内容についてご意見、ご質問をいただきたい。

###### 委員より

- ・ アンケートの実施時期はいつか？

###### 事務局より

- ・ アンケートの実施は平成30年11月下旬を予定している。
- ・ アンケートを回収し、集計結果の報告書を平成31年2月末までに作成する。
- ・ 集計結果については、本年度末（平成31年3月頃）開催予定の第二回会議において報告する予定。

###### 委員より

- ・ 今回調査するのは、すぐに必要だというニーズについてか、または、将来、こういうものがあつたらいいなというようなニーズについてのどちらか？

###### 事務局より

- ・ 基本は、今現在で必要なサービスについて問い、ニーズ量を算出する。

###### 委員より

- ・ 国の指針による12項目については、国から質問のひな形が示されているのか？

###### 事務局より

- ・ 現時点では、今回の調査について特別に示されているひな形のようなものはない。
- ・ 前回の調査と（平成25年度実施）と比べると、比較的自由度が高いものであると考えられる。

###### 委員より

- ・ 前回の調査票（資料2）を見たが、今回も調査票の分量（頁数及び設問数）は同程度とするのか？

###### 事務局より

- ・ 前回調査では、調査票は24頁であったが、今回は20頁程度とする予定。
- ・ 内容をある程度簡潔にまとめることで、より回答しやすいものとなるよう、事務局と、委託業者とで調整し、工夫して調査票を作成していく。

委員より

- ・ 前回の調査も対象は 3,000 世帯か？また、回収率ほどの程度か？

事務局より

- ・ 前回の調査も対象は 3,000 世帯で、回収率は、72～73%程度であった。

委員より

- ・ 調査の対象は未就学児のいる家庭 3,000 世帯とのことだが、磐田市における未就学児のいる家庭の世帯数は？
- ・ 3,000 世帯抽出で適正なニーズが算出できるのか？

事務局より

- ・ 概数での回答となるが、磐田市における未就学児（0～5歳児）の人口は 8,427 人（平成 30 年 4 月時点）。
- ・ 同世帯に未就学児が複数いる場合もある。8,427 世帯と仮定しても、1/3 強の世帯が調査の対象となる。

委員より

- ・ 本年度実施する調査についても回収率は 70%程度を見込んでいるのか？

事務局より

- ・ 高い回収率を目指し、内容等工夫して調査を実施していく。今回も 7 割程度を目標としている。
- ・ 参考として、昨年度実施した子育て世帯の生活実態調査（18 歳未満の児童のいる世帯 3,000 世帯を抽出して実施）では、所得に関する項目等、答えづらい質問もある中、回答率は 63.1%であった。

委員より

- ・ 国の指針による 12 項目のなかに、児童養護施設等とあるが、磐田市に児童養護施設や乳児院はあるのか？
- ・ もしない場合は、調査するニーズは、磐田市外の施設の利用についてということでしょうか？

事務局より

- ・ 磐田市には児童養護施設・乳児院ともなく、実際に入所となる場合には他市の施設を利用することとなる。
- ・ 本項目については、直接的に施設入所の希望について問うものではないと想定しており、施設入所となるリスクを調査するような内容となるよう、工夫して質問項目を作成していく。

司会（会長）より

- ・ 委員から出た質問等を基に、事務局は調査の準備を進めていただきたい。

## (2)磐田市子育て世帯の生活実態調査について（資料3参照）

### 〈事務局からの説明〉

- ・（報告書1頁参照）本調査は、以下の二点を大きな目的として、平成29年度に実施したものの。
  - ①全国的に話題となっている「子どもの貧困」について、磐田市の実態を概ね把握すること。
  - ②子どもの貧困対策だけではなく、子育て支援施策全般に反映するための基礎資料とすること。
- ・貧困の実態把握のために、調査票には、保護者に対し踏み込んだ質問（所得に関すること等）もあったが、3,000件のうち1,892件、回答率は63.1%と、予想を上回る回答をいただくことができた。

### 磐田市における子どもの貧困率について

- ・（報告書の2頁参照）子どもの貧困対策のための国の調査に倣い、磐田市における子どもの貧困率の算出を試みた。調査のなかで、世帯人員と可処分所得（可処分所得については具体的な数値ではなく100万円区分の選択方式）についての回答結果を基礎資料として、内閣府が分析した貧困線を参考に、世帯人員別の貧困層区分を設定し、調査結果をまとめた。
- ・（報告書内 調査票83頁参照）世帯人員と可処分所得について有効な回答が1,498件あり、そのうち、貧困層に分類される世帯が12.8%であった。
- ・子どもの貧困率については、磐田市が13.6%であったのに対し、全国では13.9%と、同程度の割合であることがわかった。

### 調査結果全般について

- ・今回の調査内容について大まかに説明すると、

（報告書5～11頁）回答者の世帯の状況について

本調査は、子どもの貧困についての調査のため、それぞれの質問項目に応じて貧困層とそうでない層にわけて集計を行った。

また、ひとり親世帯が増加傾向にあり、かつ経済的に厳しい状況におかれているケースが多いことから、各調査項目において、ひとり親世帯とそうでない世帯とをわけた集計についても行っている。

（報告書12～40頁）対象となる子どもについて

本調査は、対象となる子どもを抽出し、その保護者宛に回答を依頼したため、宛名の子どもについての調査結果となる。

主には、親子の触れ合いの頻度に関すること、子どもの進学に関すること、経済的な関係で、子どもにしてあげられなかったこと等についての回答結果をまとめている。

（報告書41～48頁）回答者と配偶者について

（報告書49頁～）回答者自身について

本調査結果は、回答者の9割弱が母親であったため、回答者が母親、配偶者が

父親という形で回答されているものがほとんどである。

(報告書 65 頁～) 経済的な状況について

手取りの収入金額について等の質問項目を設け、この結果をもとに貧困率を算出した。

(報告書 78 頁) 現在実施されている磐田市の子育て支援サービスの満足度

→こども医療費無料化の満足度が高い

(報告書 79 頁) 今後必要だと考える支援について

→①子どもの進学にかかる費用負担について

②保護者が就労している家庭のための子どもを預かる施設

③幼稚園、保育園、こども園の費用負担の軽減

(報告書 84～85 頁) まとめ

#### 本調査の結果をうけて

- ・部局を横断したプロジェクトを発足し、今後の施策について検討を行っている。
- ・経済的な困窮がネグレクト等の虐待に発展するケースも見受けられることから、子どもの貧困対策について検討することは重要であると考えている。
- ・今後の検討の参考とするため、本調査結果についての感想や意見を委員の皆様からいただきたい。

#### 委員より

- ・貧困の問題に関する調査は、回答率が低くなる傾向にあるにもかかわらず、このような高い回答率となっていることについて、調査票に工夫がされていると感じた。

#### 委員より

- ・本調査の対象者は日本人のみか？

#### 事務局より

- ・調査の対象者は日本人のみ。
- ・外国人を調査の対象とするかについて検討した結果、翻訳や、対象者数の関係で本調査においては対象外とした。

#### 委員より

- ・日々の業務において、外国人の貧困率が高いように感じている。今後このような調査を実施する際や、本年度実施するニーズ調査について、外国人も調査対象とし、翻訳等の対応をすることを検討しているか？

#### 事務局より

- ・子どもの貧困に関する調査の今後の実施については未定であるが、もし実施することとなった場合には、外国人を調査対象とするかについて、検討する項目とさせていただく。
- ・本年度実施するニーズ調査についても、同様に検討する項目とさせていただく。

委員より

・静岡県において、特に西部地域は外国人への対応が重要であると考えられるため、検討していただきたい。

委員より

・家を新築したり、購入したりして日本で暮らす外国人も多くいる。日本人、外国人を問わず、地域に溶け込んで生活できるよう声掛け等をしている。行政でも外国人への対応をしていってもらえるとよい。

委員より

・満足度の高い磐田市の子育て支援サービスとして、こども医療費の無料化が挙げられているが、それと併せて、症状がひどくなる前に早めに受診するということが家庭に浸透した背景として、こども医療費の無料化は大きかったのではないかと思う。

・子どもや保護者に対して支援をするなかでもそのことを感じている。

委員より

・このような調査を行ったのは今回が初めてか？

事務局より

・市全体から無作為抽出で、このような調査を行ったのは今回が初めてである。

・前段階の調査としては、平成 29 年度に児童扶養手当の受給資格のあるひとり親世帯に対し、簡易的な調査（所得等についての質問項目を含む）を行った。

委員より

・可処分所得が多くなれば、生活は楽になると言えるため、貧困対策について考える際には可処分所得の状況を確認することが重要である。

・増税やインフレがあるなかで、可処分所得が増えなければ、根本的な貧困の解消にはつながらない。可処分所得を増やすための施策（雇用や労働について等、幅広い内容となる）を行う必要がある。

委員より

・アンケートを実施する際には、提出期限は余裕をもって長めに設定する必要がある。

・共働きで就労している世帯等、忙しいなかで回答していくこととなるため、提出期限が短いと、きちんと読み込んで正確に回答することが難しくなる。

(3)磐田市ひと・ほんの庭にこっとの概要紹介について（資料4 施設案内等を配布）

〈事務局からの説明〉

- ・ひと・ほんの庭にこっとは平成30年8月11日にオープンし、ちょうど2か月が経過したところ。
- ・現在は図書館ではない（図書館施設を改装してオープンした）ものの、絵本と一般書を合計して5万冊ほど置いており、本の力を使って母親や人と人との交流の支援をする施設である。
- ・オープンしてから、新規で本を借りるためのカードを作った方が約500人おり、本を借りる方は増えていると考えられる。
- ・利用人数は、平均すると平日400～500人、土曜日は1,000人弱、日曜日は600～700人。
- ・相談機能を備えており、保健師や保育士が常駐し、フロアで相談支援業務にあたっている。
- ・様々な来館者がいる中で、お母さん方が、家に閉じこもらないで、ちょっと行ってみようかなと思えるような場所になることを目指している。
- ・オープンして2か月ほど経過したが、にこっつについての周知が十分でない部分があるので、情報発信の方法等を工夫していくとともに、地域の民生委員の方々の方も借りながら、悩みを抱えている母親について地域につなげることができればと考えている。
- ・現在は、相談にきた方を地区の担当保健師につなげることもあり、一つの機関ではなく複数の機関から子どもたちの見守りができるよう取り組んでいる。
- ・皆様方にも、地域のお母さん方に、にこっつについての情報提供をしていただければと考えている。
- ・ハローワークの出張相談を毎週水曜日と金曜日の午後に実施している。非常にニーズが高く、多いときには8～9人の相談があり、お母さん方の就業意欲の高さを感じている。
- ・ハローワークの職員の話では、ハローワークに直接相談にくるお母さんは、あまり深く、細かい話をするのではないが、にこっつでの相談では、細かいところまで相談をしてもらえることが多いとのこと。にこっつでは、より解放的な気持ちで、話やすい環境や雰囲気ができているのではないかと考えている。

委員より

- ・是非ハローワークで、潜在保育士の募集をしてもらいたい。

委員より

- ・本日まででどれくらいの来場者がいるのか？

事務局より

- ・具体的な合計人数を現在持ち合わせていないが、平日400～500人、土曜日は1,000人弱、日曜日は600～700人であるので、その1か月分が大まかな来場者数となる。

委員より

- ・配架の仕方等、大変素晴らしいこども向けの図書館であると感じた。

**事務局より**

・本棚については、こどもの目の高さにあったものに変更しており、フロアの配置についても様々な方の意見を基に考えられたものとなっている。

**司会（会長）より**

・意見は以上でよいか。では、議事、意見、質疑については以上とさせていただきます。

**5. 事務連絡**

- ・長時間にわたり、様々なご質問・ご意見をいただき深く感謝申し上げます。
- ・次回の会議は、子ども・子育て支援事業ニーズ調査の結果報告書のまとまる平成31年3月頃を予定している。

**6. 閉会**